

【令和7年度全国学力・学習状況調査分析結果】

わが校の強み弱み分析・評価シート

調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

今年度の全国・学力学習状況調査は、「国語」「数学」に「理科」を加えた3教科で実施されました。理科については、CBT(Computer Based Testing)方式でもって、本校は同一試験日で実施しています。そのため、他校とは異なる問題も出題されています。

いずれの教科においても、全国や県の平均を上回る結果となりました。特に数学については、全国平均よりも0.5ポイント上回る結果となりました。本校が取組を進めてきた授業改善、特に協同的な学びのある授業づくりの成果が表れてきているものと捉えています。しかしながら、「学習に対する興味・関心」の項目には課題が見られました。

《強み・弱み》

国語では、「知識・技能」を問う問題のうち「言葉の特徴や使い方に関する事項」を筆頭に、概ねすべての領域において強みが見られました。一方で、「思考・判断・表現力」を問う問題の中で、特に資料を基に解答することについて弱みが見られました。その中でも、記述式の問題では無回答率も高い状況が見られます。

数学では、「数と式」領域においては「知識・理解」「思考・判断・表現力」共に大きな強みが見られました。一方で、正答率は全国比で高いものの、無回答率が高い結果が出ていた問題が、「関数」「データの活用」「図形」領域と広く、いずれも短答式もしくは記述式の問題で見られました。定義を正しく理解して、数学的に表現することについての弱みが見られました。

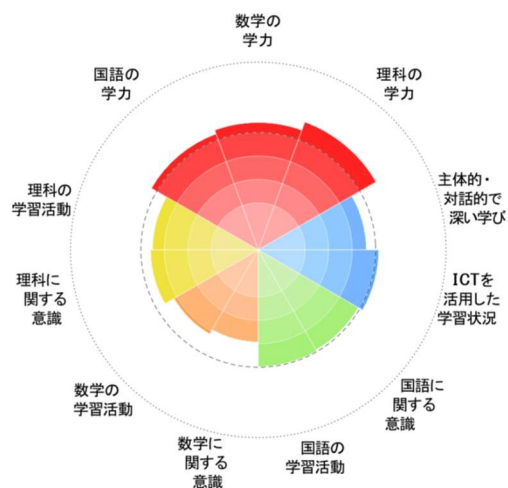
理科では、平均正答率、IRT(Item Response Theory)スコアにおいて、概ねすべての領域において強みが見られました。一方で、記述式の問題においては、強みはみられず、無回答率が高い状況が見られました。

学習に対する興味・関心については、特に数学に対する苦手意識の高さから、興味・関心に関する項目についての弱みが見られました。また、記述式の回答に対する苦手意識や、授業中に自分の考えを説明することへの苦手が見られました。特に、総合的な学習の時間を柱にした、探究のある授業づくりを進めていく必要があります。

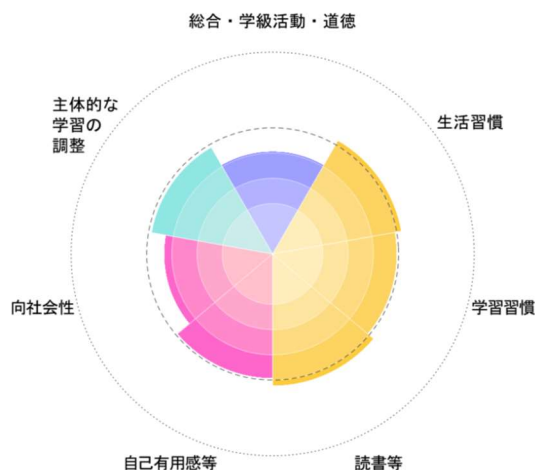
本校生徒は、生徒質問紙において概ね全国の傾向と同様の回答を示していますが、特徴的な傾向として、「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか」という質問に対し、「よくある」「ときどきある」と回答した生徒が全国比で7ポイント以上高い結果となりました、「地域とともにある学校」としての強みが見られたものと捉えています。

【強み弱みレーダーチャート（全国比）】

教科を中心とした学力・学習状況



その他（学習習慣・自己有用感等）学力・学習状況



【指導の充実に向けて】

今年度の結果を受け、本校がこれまで進めてきた校内研究で培った強みを生かし、現在の弱みを克服するために、次の取り組みを推進します。

- ① 授業において、探究のある課題を協同的に取り組むことを大切に授業改善を進める。
 - ・ 日々の授業において、知識伝達型の授業ではなく、子どもたちの主体性・協働性を育む探究型の授業づくりを進める。
 - ・ 4人グループでの学びを基本とし、困難があっても他者と協働し、粘り強く取り組むような課題づくりを進める。
- ② 総合的な学習の時間の計画・内容を見直し、探究的な学習を年間通じて進める。
 - ・ 自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動を年間通じて実施するための計画を策定する。
 - ・ 単元配列表を策定し、カリキュラムマネジメントを進めることで、全教育活動で子どもたちの主体性・協働性を育む。
- ③ 認知能力と共に、「非認知能力」の育成に着目した取り組みを進めることで、一人ひとりの子どもたちの育ちを支える。
 - ・ 教師が生徒一人ひとりの成長に気づき、温かな支援を進めるなど、全ての教育活動において、心通う生徒指導を推進する。